

研究タイトル：

長州藩の学問・教育思想と文学



氏名：	牛見 真博／USHIMI Masahiro	E-mail：	ushimi@oshima-k.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(学術)
所属学会・協会：	全国漢文教育学会，日本道德教育学会，山口県地方史学会		
キーワード：	学問・教育思想，長州藩，漢詩・漢文		
技術相談 提供可能技術：	・学問・教育思想 ・山口県の歴史 ・漢文学		

研究内容： 長州藩の学問・教育思想と文学について

山口県の教育は、幕末の吉田松陰に始まると言われる。それでは、そもそも吉田松陰という人物は、どのような風土のもとにあらわれたのか。そうした疑問を出発点として、主に、長州藩の学問・教育思想について研究を行っている。

その自答の大枠として、吉田松陰を生んだ長州藩の学問・教育風土の形成には、江戸中期に藩校明倫館創設に深く関わり、第2代学頭をつとめた儒学者・山県周南の影響が多であることを、拙著『長州藩教育の源流—徂徠学者・山県周南と藩校明倫館—』（溪水社、2013年）において論じている。

山県周南は、江戸中期に活躍した儒学者・荻生徂徠の高弟の一人であり、当時の江戸で流行した番付では、熊澤蕃山、新井白石、伊藤仁斎といった錚々たる儒学者の顔ぶれに交じり、十指のうちに数えられた。現在、その名は郷土の人々にもほとんど知られることがないが、彼の様々な尽力により、藩校明倫館の教育を通して、当時の徳川幕府の公認学問であった朱子学に異を唱える「徂徠学」が藩内に浸透し、長州藩は西日本における徂徠学の一大拠点となった。

「朱子学」の教育論が、一斉講義による受身で、序列的・段階的な「画一的な学び」であったのに対して、「徂徠学」では、各人の興味関心に応じた「自発的な学び」を重んじ、「学べば誰でも相応に伸び」、「各人の特性に応じて、誰もが世に役立つ」ことなどを掲げている。そうした徂徠学による学問・教育思想が、幕末の長州藩にも底流して大きな影響を及ぼし、松下村塾を主宰した吉田松陰が徂徠学の影響も多分に受けていたことを明らかにした。その意味において山県周南は、長州藩の学問・教育風土の源流に位置づけられ、吉田松陰の教育者モデルとも言える人物である。

また、吉田松陰や高杉晋作、久坂玄瑞といった幕末の志士に関して、文学や海事志向など、先行研究とは異なる視点から人物像の再検討を試みている。最近の研究では、長州藩の山県周南から自覚的に使われるようになった一人称代名詞「僕」について考察しており次の論文がある。

- ・「近世における一人称代名詞「僕」の使用をめぐって—江戸中期の徂徠学派〈山県周南〉から幕末の〈吉田松陰〉へ—」（『東アジア研究』第18号、2020年）
- ・「長州藩における一人称代名詞『僕』の使用—滝鶴台の用例を取り上げて—」（『山口県地方史研究』第124号、2020年）
- ・「高杉晋作における一人称代名詞『僕』の使用」（『山口県地方史研究』第126号、2021年）

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	